

三月十一日。青蓮院門跡義圓、若壽丸に、同門跡領能登國衙職を知行せしむ。

【明王院文書】 近江

七三八

御門跡領能登國衙職事、爲御恩可令知行給之由、青蓮院御氣色所候也。仍執達如件。

經守

應永十六年三月十一日

法眼 在判

若壽殿

(こゝにいふ能登國衙は今の鹿島郡國下なるべし。)

九月四日。足利義持、山城等持院に、同義滿の佛事料所として能美郡粟津上下保半分を寄進す。

【等持院文書】 山城

七三九

寄附 等持院

加賀國粟津上下保半分事

右爲鹿苑院殿御佛事料所、所寄附當寺之狀如件。

應永十六年九月四日

内大臣源朝臣 在判

【等持院文書】

七四〇

等持院雜掌申、加賀國粟津上下保半分事、任今月十日御寄附、可被沙汰付寺家雜掌之由、所被仰下也。仍執達如件。

應永十六年九月十日

治部大輔 在判

左衛門佐入道殿

【等持院文書】

七四一

等持院雜掌申、加賀國粟津上下保半分事、任今月四日御寄附、同十日御施行之旨、可沙汰付寺家雜掌之狀如件。

應永十六年九月十二日

左衛門佐 在判

二宮信濃入道殿

應永十七年

庚寅

紀元二〇七〇

五月七日。青蓮院門跡義圓、安賀丸に、同門跡領能登國衙を知行せしむ。

【明王院文書】 近江

七四二

越前國樺河郷并能登國衙事、爲御恩可被知行之由、青蓮院門跡御氣色所候也。仍執達如件。

應永十七年

經守

五月七日

法眼 在判

安賀殿

七月二十日。加賀守護斯波滿種、二宮信濃入道をして、山城勸修寺領江沼郡郡家莊内沽却の地に干渉すること勿らしむ。

【尾張文書通覽】

七四三

勸修寺領加賀國郡家莊事、爲守護不入之地之上、任去應永六年御教書之旨、沽却之地於向後不可相綺候。可被此旨承知狀如件。

應永十七年七月二十日

在判

二宮信濃入道殿

八月三十日。沙彌祐信、鹿島郡永光寺に制札を與ふ。

【永光寺文書】 鹿島郡

七四四

禁制

能登國洞谷山永光寺事

於寺中門前山林等、一切取竹木、其外甲乙人不可致亂妨狼藉、若有違犯輩者、可處罪科之狀如件。

應永十七年八月晦日

沙彌祐信 在判

九月十日。足利義持、山城臨川寺領加賀郡大野莊に役夫工米を免除す。

【天龍寺文書】 山城

七四五

臨川寺領加賀國大野庄・若狹國耳西郷等所々目録在別紙、役夫工米事、任去貞和五年四月十五日勅裁并官符宣所免除也。可被存知之狀如件。

應永十七年九月十日

在判

當寺長老

十二月廿六日。足利義持、山城臨川寺領加賀郡大野莊に白山社の段米を免除す。

【天龍寺文書】 山城

七四六